

## 安倍内閣の戦争法案に反対します

世田谷区成城九丁目在住

主婦（九十才）

自分の命が自分のもので無かった時代が実際にこの国に在った事を、どうぞ忘れないで下さい。この国に戦争があった事、沢山の人達がどのようにして死んで行ったか、何を想って死んだか、それを忘れないで下さい。

私は太平洋戦争と共に若き日を過ごしました。其の頃、若者たちは次々と戦争で死んでゆきました。無謀な「戦争」に、国は大勢の若者たちを砲弾代りに使って殺しました。戦争は相手を、又自らをも殺戮し破壊する事です。戦争が始まれば途中で止める事は出来ない。相手は必ず攻めてきて、東京空襲一夜で十万人が焼き殺され、広島、長崎の原爆投下で何十万人もの人間が、爆心地地表温度セ氏 3000～4000 度の熱線下で焼け爛れて死にました。日本の都市はことごとく焼き尽くされ破壊され尽くした。これが戦争の現実です。

死んでいった人たちに代って、続く世代の皆様に訴えます。

日本はもう二度と戦争などしてはならない。隣国や他の国々とも仲よくして、未来の平和を守り抜いて下さい。

愚かな戦争で日本が得た唯一つのもの、それが「憲法九条」です。敗戦後七十年間日本は、戦争の為に殺す事も殺される事もなく過ごしました。夥しい命と引き換えに得た「平和憲法」をこれからも手放してはなりません。世界に向けて、私たちは戦争をしないと申し続けましょう。軍事力競合に人間の未来はありません。

音もなく我より去りしものなれど 書いて偲びぬ明日といふ字を

この短歌を遺して死んだのは、シンガポールの刑務所で戦犯刑死された木村久夫です。彼は罪がないにもかかわらず、「踏み殺された一匹の蟻」として死にました。彼が失った「明日」を、又再びこの国の若者達が失う事のない様に、「憲法九条」を守り抜きたい。